

宗像神社と昭和大礼（その一）

― 附 宗像神社辺津宮社務日誌（昭和大礼関連、昭和二年十一月～昭和三年四月） ―

平山 昇

はじめに

本稿は、このたび刊行された『新修宗像市史 祈りとまつり』^①の中で私が執筆した「宗像神社の近代」（以下「別稿」）について、昭和大礼に着目して補遺をおこなうものである。

この別稿は、既存の『宗像神社史』各巻および『宗像大社昭和造営誌』（以下『造営誌』）^②にくわえて、市史編纂にあたって特別に閲覧を許可された宗像神社辺津宮の社務日誌（以下『日誌』）を活用して、近代の宗像神社（現・宗像大社）をめぐる数々の興味深い事実を明らかにした。しかし、種々の制約もあり、十分に記述できなかったことも少なくない。

その一つが昭和三（一九二八）年十一月に举行された昭和大礼（昭和天皇の即位大礼、当時の言葉では「御大礼」「御大典」）である。別稿ではいちおう昭和大礼を立項したものの、幡掛正木宮司が率いる宗像神社が国鉄門司鉄道局と連携して交通安全祈願を盛り上げていったことに力点を置いたため、昭和大礼の記述は手薄とならざるをえなかった。

かつて天皇の代替わりをめぐる先行研究は、上からの国民統合の

側面を強調した^③。だが、『日誌』を精査してみると、宗像神社をふくむ地域社会（福岡県と宗像郡の両方のレベル）のさまざまな主体が活発に動く様相が見えてくる。

そこで本稿では、『日誌』の昭和大礼関係の箇所を抜粋翻刻したうえで（本稿後半の附録）、これを活用しながら検討をくわえていきたい。なお、紙幅の関係により、今回は昭和三年四月までを対象としている。それ以降については稿を改めたい。

一 昭和大礼と幡掛正木宮司

別稿では戦前の宗像神社の飛躍的發展の立役者となった幡掛正木宮司（在任昭和二年二月～七年六月）の業績を大きく取り上げた。彼の後任宮司として着任した櫛本憲昌は、崇敬講社の機関誌『神光』で幡掛のことを次のように称賛している。

御承知の通り幡掛宮司は新進気鋭の士で、同職中の一明星であり、且つ、鬼に金棒として婉転滑達（円転滑脱）の敏腕を有する入江称宜を副とし、然も新任^{（そうそう）}忽々、昭和の大典に遭遇したの

で好機逸す可からずとし、凡有る方面より宗像三神の大宣伝を試み、満腔の熱血を濺ぎ、夫子自ら馬を陣頭に進めて、大いに部下を督励したのでありますが、果して、多年蔽れたる宗像神社の御神徳は燦として光輝を放たれたのであります。

今や、宗像神社は祭神を同じうする全国八千の神社を糾合し、神徳海外に普く、朝鮮、満洲はおろか、遠く南米の異域にまでも進出され、遠近より奉賽の誠を致すもの引きもきれぬ有様となつたのであります。⁴⁾

櫟本が指摘するように、昭和二（一九二七）年二月に着任した幡掛宮司は、翌年に挙行される昭和大礼を強く意識して様々な行動を起こしていった。『日誌』をみると、遅くとも大礼の一年前となる十一月頃までには「参宮団」（伊勢神宮への団体参拝）⁵⁾など大礼に関連づけた種々の計画が動き始めていたことがわかる。

二 「主基齋田ノ件東京方面へ打電」

その後、昭和大礼は福岡県にとって格別な意味をもつようになる。昭和三年二月五日、大嘗祭で用いる米を献上する悠紀地方と主基地方に、それぞれ滋賀県と福岡県が選ばれたと宮内省から発表されたのである。⁶⁾これをうけて福岡県内では合計九四もの主基齋田候補地のなかから最終的に早良郡脇山村が選ばれ、三月十五日に発表された。

『日誌』における主基齋田の初出は昭和三年二月七日条である。幡掛宮司が「主基齋田ノ件東京方面へ打電」のために神湊町へ行つ

たと記されている。

主基地方が福岡県に勅定されたことを農林省から知らせる電報が福岡県庁に届いたのが二月五日。翌六日、福岡県知事齋藤守圀は県庁幹部とともに博多駅を出発して上京、挨拶と打合せのために宮内省と農林省を訪れ、一部の幹部は大正大礼で悠紀地方・主基地方となった愛知県と香川県を視察して、十三日に全員帰庁した。

以上をふまえると、「主基齋田ノ件東京方面へ打電」というのは、幡掛宮司が上京中の知事一行に対して何らかのはたらきかけをおこなったか、あるいは関連情報を入手しようとしたことを示している可能性が高い。齋藤知事はすでに前年から知事着任奉告のために辺津宮に参拝したり、新聞社関係者たちを引き連れて沖津宮に参拝したりするなど、宗像神社と良好な関係を築いていた。⁷⁾

なお、幡掛宮司は三月二日から十二日まで上京したことが『日誌』からわかるが、おそらくは主基齋田と関わる行動であつたと思われる。

幡掛宮司が宗像郡から主基齋田の地が選ばれることを望んだことは想像に難くないが、前述したようにそれは実現しなかった。しかしながら、ここで歩みを止める幡掛ではない。彼は次々と新たな行動を起こしていく。以下、三点に分けて指摘したい。

三 宗像神社の悠紀齋田と主基齋田

一つ目は宗像郡内の悠紀齋田と主基齋田の設置である。『日誌』三月十四日条をみると、「神籤」によって「悠紀主基齋田」が「ユキ田島村 スキ 上西郷村」に決定したとある。この「悠紀主基齋田」

というのはここまで述べてきた全国レベルのものではなく、宗像神社の大嘗祭神事のために宗像郡内にもうけた斎田のことである。当時は新聞で報じられるなど広く周知されたが、『宗像神社史』各巻と『造営誌』には記述がみられず、『玄海町誌』に簡略な記述がある程度で、⁽⁹⁾現在ではほとんど忘れられている。以下、早良郡脇山村の主基斎田との混同を避けるために「宗像神社悠紀斎田」「宗像神社主基斎田」「(宗像)両斎田」と表記する。

さて、大札を記念して宗像郡教育会が編集・発行した写真集にはこの両斎田の写真(写真1)が掲載されているが、そこに付された説明をみると、次のように記されている。

今秋行はせられる御大札に当り、官幣大社宗像神社に於ては、先例に依り(記録には明治天皇御即位式の時より……以前分明显せず)悠紀、主基の御斎田を設定せられた〔中略〕
本郡は昔からの神領で、郡内全部が神社の氏子である。それで斎田の選定に当つては、皇室の御制度に倣はせられて、神社より東に悠紀、西に主基の両斎田を設け、その位置は神籤によって決せられた⁽¹⁰⁾

要するに明治の「先例」があるという説明になっている。だが実は、大正大札はこの「先例」にはあてはまらない。このときも宗像神社は大嘗祭神事のために二つの斎田を亀卜によって定めたが、選ばれた町村は二つではなく赤間町一つだけで、同町内で二か所の斎田が選定された。また、「悠紀」「主基」という用語はまったく用い



写真1 宗像神社の悠紀斎田・主基斎田 『昭和御大典記念 史蹟名勝写真帖』より

られていなかった。¹¹⁾

注目すべきは、県の主基斎田の選定過程において各郡市の農会に候補地の推薦（二月二十七日締切）が依頼されたが、宗像郡からは田島、南郷、上西郷、吉武の四か村の田が推薦されたということである。一見してわかるように、のちに「神籤」で選ばれる二か村が両方とも含まれている。後者にいたっては所有者（伊藤惣太郎）までも一致している。¹²⁾ そうすると、「神籤」は宗像郡の全町村ではなく右の四か村を選択肢としたと考えるのが自然であろう。

興味深いのは『日誌』三月十日条である。宗像神社が神職会および農会とのあいだで斎田について「前例ニヨリ神籤ヲ以テ二ヶ村ヲ定ムル」という「協定」を結んだとある。「前例」といっても赤間町だけを選んだ大正大礼とは異なるので、ここでは大正を飛び越えて前述の説明にもあった明治の前例に準拠したものと考えられる。

実はこの前日の三月九日、主基斎田の最終候補地が三か所（早良郡脇山村、糸島郡長糸村、筑紫郡山口村）に絞られたことが県庁から発表された。つまり「協定」は宗像郡が選外になったことが確定した直後に結ばれたのである。せっかく手間のかかる調査と書類作成¹³⁾をおこなって四か所の候補地を選定した郡農会としては、このまま徒労に終わってしまうのはもったいない。一方で宗像神社は、大正大礼の前例にならえば宗像郡内に二か所の斎田が必要になるが、すでに郡農会が選定した優良候補地があるのだから、これを活かさない手はない。そこで出てきたのが、悠紀と主基の二つの斎田を神意によって選ぶという直近に全国規模でおこなわれた方法を宗像郡内に引き写して模倣するというアイデアだったのではないかと。郡農

会側としては、再び選外となってしまう残りの二か村も、「神籤」の結果であれば納得せざるをえないだろうということまで考えたのかもしれない。

以上みてきたように、宗像両斎田をきめる「神籤」は、県内の主基斎田の選定過程と連動していた。選ばれた両斎田では「祓式地鎮祭勦入祭」がおこなわれたが、明らかに早良郡脇山村の主基斎田でおこなわれた儀式を意識したものである。県庁幹部も出席してこの儀式に協力していることから、脇山村の主基斎田に万が一問題が起こった場合のバックアップの役割が宗像両斎田に期待されていた可能性も考えられよう。

四 脇山村からの団体参拝

二点目は、三月二十五日におこなわれた脇山村から宗像神社への団体参拝である。『日誌』では主基斎田が脇山村に確定したことが発表されて三日後（三月十八日）に関連記述が初出し、宗像郡内の主要団体が総力をあげてこの団体参拝を迎え入れたことがわかる。『日誌』については翻刻を参照してもらうとして、ここでは新聞報道を引用しておきたい。

主基斎田の光栄に浴した福岡県脇山村では、廿五日午後零時半より村社横山神社の宗社に当る宗像郡官幣大社宗像神社に於て、赤誠^{まこと}めたる主基斎田五穀豊饒祈念大祭を最も莊嚴に執行した

〔中略〕之より先き主基村脇山では午前五時頃早くも脇山小学

校前に参集勢揃ひの上、奉耕者石津新一郎氏夫妻を初め、中島村長、村会議員、横山神社樋口社掌、小学校教員、在郷軍人分会、主婦会、青年、処女団等の村民二百五十名は、在郷軍人分会旗を押し立て、蜿蜒長蛇〔蜿蜒長蛇〕の列をなしながら午前九時博多駅着休憩後、同九時廿三分発同十時廿分東郷駅に到着するや、幡掛宗像宮々司以下神職一同、中村県会議員、川島東郷町々長、同小学校校長等の案内で、奉耕者石津夫妻、中島村長等廿余名は数台の自動車を書ね、其他の二百余名は田島村青年団の案内により徒歩で一路宗像神社に向つた。一行は正午頃宗像神社に到着したが、駅前には東郷町青年団処女会員小学校生徒三百余名出迎へ、沿道の各町村では各戸何れも国旗を掲揚して一行を歓迎し、宗像神社の境内は之亦瀧口津屋崎小学校長、花田郡農会副会長、古閑東郷署長等を初め青年処女会、在郷軍人会員等約四百名の各種団体員等が出迎をなしてさしにも広き社頭も人を以て埋める有様であつた。斯て定刻零時半より奏楽裡に大祭開始、幡掛宮司外十余名の神職は修祓献饌宮司祝詞後、一同君が代〔ルビは原文通り〕合唱あり、次で宮司の玉串奉奠後、重大なる責任社〔ルビ〕石津氏は謹厳なる態度で神前に進み出で、神明の加護厚く五穀豊穰の農運ゆたかなれと深き祈りを捧げ、夫れから中島脇山村長、金子小学校校長、横山神社樋口社掌、在郷軍人消防頭取、青年、処女、主婦各会長、知事代理（佐藤県属）宗像郡奉祭〔奉斎カ〕会長、川島東郷町長、古閑同署長等の順序にて玉串奉奠、終て一同礼拝、何れも心ゆくまで赤誠こめて祈を捧げた。斯くて大麻授与撤饌の後盛式裡に大祭を終つた。

夫より幡掛宮司は一場の挨拶をなし、之に対し金子脇山小学校長の謝辞、高木樋井川村長は早良群内〔ハヤラグンチ〕の町村長を代表して之又一場の挨拶をなした。

一行は田島村小学校に於ける神社其他関係者主催の歓迎宴に臨んだが、田島村婦人農会の手料理に一同舌鼓を打ちつゝ、午後二時半出發同三時卅分東郷駅発列車で帰途についた。奉耕者石津氏中島村長等廿余名は更に宗像宮より自動車を連ねて宮地嶽神社に参拝して耕運の幸を祈りて、午後三時五十分福岡駅発列車で帰途についた。

尚川島東郷村長は脇山村のため神酒一樽を献上したが、脇山村長は之を村に持ち帰つて村民と共に鏡を抜く事となつた。⁽¹⁵⁾

記事の冒頭では脇山村の村社横山神社の「宗社」が宗像神社であることに言及しており、これは事前報道でも強調されたのだが、これ以前に脇山村から宗像神社への団体参拝は見られない。宗像神社から事前に関係各団体へ種々の依頼がなされているうゑに、終了後には幡掛宮司を含む神職たちが「御礼」のためにこれらの団体を「巡回」していることからみても『日誌』三月二十六日条、同二十七日条、宗像神社が主導して実現した団体参拝だったことは明らかである。幡掛たちは地元が主基斎田に選ばれなかったことをうけて、選ばれた所との結びつきを活かして宗像神社を世間にアピールしようと考えたわけである。

この参拝は脇山村の人びとにとつて実りあるものになったよう⁽¹⁶⁾で、『日誌』をみると宗像神社到着後の歓迎挨拶の折には脇山村の

女性たちのなかに「感泣」する者がいたと書き留められている。
『日誌』が団体参拝について記すときにこのような記述があらわれるのは非常に珍しく、この団体参拝が脇山村の人びとの胸に深く刻まれたことがうかがえる。

五 主基地方記念会と主基地方風俗舞

三点目は主基地方記念会の創設と主基地方風俗舞の保存活動であるが、今回対象とした時期範囲をこえており、紙幅も尽きたため、既存の文献の関連箇所を注で示すにとどめる。^①

本稿はいったんここで閉じることとし、昭和三年五月以降の動向については稿を改めて紹介することとしたい。(未完)

【附録】宗像神社辺津宮社務日誌（昭和と大正関連、昭和二年十一月～昭和三年四月）

昭和二（一九二七）年

十一月二十八日

一、午後二時半ヨリ社務所ニ於テ本日参集ノ町村長会ヲ開ク。出席者、大島、河東、神興、勝浦、神湊、岬、吉武、池野、以上八ヶ町村長ト他ハ代理者ニ花田神職会幹事
神社産子惣代田島村五人、高山元県参事会員、以上二十一名

〔中略〕

協議事項

- 一、勅祭社御加列請願ノ件。（賛成）
 - 一、斎田撰定ノ件。（前例ニ依ルコト。）
 - 一、三社大計画実施方ノ件。（賛成）
 - 一、御大典紀念事業ニ関スル件。（賛成）
- 以上種々懇談ノ後午後四時直会ノ後散会。

十二月九日

- 一、午前十時 産子惣代委員会開催、午後二時閉会
- 出席者 大森達 川島田造 安部豊敏 尾形義雄 豊福悟郎
- 大庭森平 田中弥十

議案

〔中略〕

協議事項

- 一、勅祭社御加列請願ノ件
- 一、三社復興計画実施方ノ件

一、宗像神社奉賽会組織ノ件

一、御大典記念事業ニ関スル件

一、参宮団組織ノ件

十二月十四日

一、入江祢宜赤間町〔大麻〕頒布式参列ノ為出行終テ東郷駅ニ参宮
団ニ関スル件打合ノ為駅長訪問午后三時帰社

一、花田主典ハ吉武村及東郷町ニ明十五日産子惣代会出席方交渉ノ
為出張夕景帰社ス。

十二月十五日

一、氏子総代会々々催。大森村長初全部出席。津屋崎町及東郷赤間福
間助役及代理者惣代五十二名出席、此ノ外八幡四名、中野貞五
郎氏等⁽¹⁸⁾

十二月十七日

一、本日ヨリ幡掛宮司ハ大計画案、供進金増額其他重要ナル社務打
合セノタメ十日間ノ予定ニテ上京〔同月二十七日に帰社〕

昭和三（一九二八）年

二月七日

一、午前十時半ヨリ郡内青年団幹部社務所ニ集合建国祭其他ノ件ニ
就協議ス。

出席者 田島村安部助役

青年団 福岡町、池野村、河東村、田島村、吉武村、南郷村

計十一名

協議事項

一、建国祭挙行ニ関スル件

二、宗像神社御大典記念事業ニ援助方ノ件

三、献穀斎田設置ノ件

四、参宮団組織ノ件

一、幡掛宮司宗像主典ヲ随ヘ主基斎田ノ件東京方面ヘ打電方ニ就キ
神湊町ヘ出張

二月八日

一、福日新聞〔福岡日日新聞〕記者来社（主基斎田候補地調ヘノタ
メ）幡掛宮司入江祢宜安部助役ヨリ種々説明アリ

二月十九日

一、午前十時本間農務課長水内農事試験場長郡農会花田副会長外役
員中村県会議員川島東郷町長等ノ一行主基斎田田島村ノ候補地
視察ノ為来社参拝アリタリ。入江祢宜、嶺主典村役場吏員ト共
ニ案内ニテ巡視セラル。

二月二十三日

一、斎藤知事斎田御勅定ニ付奉告並ニ大任奉仕祈願ノタメ参拝セラ
ル

午前八時諸般ノ準備ヲ整ヘ祈願並ニ奉告祭ヲ仕ヘ奉ル

午前十時知事参拝 正門前ニテ手水ノ儀 祓式アリ 昇殿

玉串奉奠 退下 社務所ニ於テ少憩 郡内各町村長花田郡

農会副長等迎ヘタリ

三月二日

一、午后五時宮司上京準備ノ為帰郷

三月九日

一、参宮団募集ノ印刷物七千枚到着ス

一、午后花田主典参宮団期日打合ノ為東郷町ニ出張

三月十日

一、入江祢宜花田主典ハ参宮ノ件其他打合セノタメ東郷町出張(中

村神職会副会長花田農会副会長占部技手ト面談)

〔欄外〕

中村副会長花田副会長トノ協定

斎田ニ関スル件

一、前例ニヨリ神籤ヲ以テニヶ村ヲ定ムルコト

一、神籤ノニヶ村ハ村長技術員神職ト協同責任ヲ以テ耕作スルコト

一、神社ト神職会ト村トノ予算ヲ以テ一層有意義ニ模範的斎田ヲ設

置スルコト

三月十一日

一、入江祢宜ハ赤間町ニ於ケル郡青年団幹部講習会ニ出席ノ上、参

宮団ノ件、春季祭ノ件、建国祭ノ件、斎田ノ件等ニ付依頼ノタ
メ出張

三月十二日

一、上京中ノ幡掛宮司帰社

三月十四日

〔欄外〕

悠紀主基斎田

神籤ニ依リ

ユキ 田島村

スキ 上西郷村

決定

三月十五日

一、宗像実業女学校生徒五名境内掃除奉仕⁽¹⁹⁾

〔中略〕

一、午后二時ヨリ山口安部田中外一名ノ本村小学校教員及占部郡農
会技手ノ会合ヲ請ヒ左記件々協議シタリ

一、春季祭発展ニ関スル件

イ、青年会学校生徒ノ演技会開催ノ件

ロ、学芸品展覧会開催ノ件

ハ、五穀豊饒蚕業発展祈願祭執行ノ件

三月十六日

- 一、学務部長ヨリ斎田奉告祭并ニ祈願祭執行ニ関スル件通牒及全上ニ付知事代理参向ノ件〔中略〕受付

三月十八日

- 一、早良郡脇山村斎田耕作者及奉仕者ニ対スル祈願祭其他祓式等執行並ニ五穀豊穰祈願ノ件ニ付花田主典中村県會議員訪問ス

三月十九日

- 一、八幡市吉田荒五郎氏来社、寄附金ノ件⁽²⁰⁾ニ付幡掛宮司花田主典ト会见、午后三時半辞去
- 一、嘉穂郡農会山北又三郎氏幡掛宮司訪問来社 斎田ニ関スル件ニ付種々聴問セラル、所アリ 五時半辞去
- 一、入江祢宜 主基斎田奉告祭並ニ豊穰祈願祭ノ件其他社務要件ヲ以テ福岡市出張、即日帰社

三月二十一日

- 一、宮地嶽神社ヨリ参宮団ノ模様打合ノ為使者来社

三月二十二日

- 一、午前十時二十五分東郷駅着ニテ大津山庶務課長来社 宗像主典 出迎へ社務所ニ休息
 - 一、午前十一時ヨリ主基斎田奉告祭奉仕
- 幡掛宮司入江祢宜宗像主典吉田主典奉仕

知事代理大津山庶務課長参拝

田島小学校職員生徒、氏子総代、花田実其他縁故会出席者
参列

三月二十三日

- 一、入江祢宜東郷町自治会館へ出張

- 一、大嘗祭斎田耕作指導方農業技術員へ依頼ノ件（斎田耕作者選定耕地選定ハ地元へ神社ヨリ交渉）

- 一、早良郡脇山村主基田関係者参拝ノ件

イ 奉斎会費ヨリ支出方内談（承認）

ロ 東郷町各種団体参拝者出迎ノヲ

ハ 脇山村主脳部自動車ニテ迎フルヲ

ニ 脇山村送呈酒二丁寄附懇請ノヲ

ホ 自動車賃割引交渉ノヲ

以上ロ以下ホ迄花田副会長東郷町長引受

- 一、花田主典ハ本村ニ於テ準備スベキ事項ニ付学校役場処女会等ヲ訪問ス

イ 中食場トシテ学校借用ノ件

ロ 中食場設備ニ関スル件

以上学校長へ相談承認ヲ受ク

ハ 処女会員出動接待助勤ノ件

各支部長会ヲ開催学校長へ談合

ニ 中食料理ノ件（一人宛 白米一合半ノニギリメシ、ガメニ、タクワン）

ホ 土産トシテ神饌用餅婦人農会ヨリ贈呈方ノ件

ヘ 田島婦人農会員へ前二件依頼ノ件

ト 田島全村国旗掲揚及各戸一人参列方ノ件

以上本村小沢書記へ依頼

一、廿五日早良郡脇山村主基田関係者豊饒祈願参拝ノ件ニ付県下両院議員県会議員郡内各町村長学校校長早良郡町村長郡支会長其他計二百八十名余へ案内状発送

三月二十四日

一、中村石門参宮団ノ件ニ付来社

〔中略〕

一、入江祢宜参宮団ノ件ニ付宮地岳神社へ出向、午后九時半帰社

三月二十五日

一、早良郡脇山村石津新一郎外関係者二百名参拝主基田豊饒祈願祭執行

午前十時二十五分東郷駅着ニテ石津氏夫妻ヲ始め中島村長金子校長 樋口社掌 外在郷軍人会 青年会 処女会 主婦会ノ各会員其他村民二百余名到着駅前ニハ東郷町長 東郷各種団体 田島村青年団出迎 石津氏始め村長等廿余名ハ自動車ニテ其他ハ田島青年団ノ案内ニテ徒歩ニテ当社ニ至ル 本社ニハ郡内各有志田島村各種団体出迎へ 一同到着ヲ以テ祭典開始 終テ神酒ノ授与紀念撮影ヲナシ学校講堂ニ於テ中食ヲ饗ス

中食ハニギリ飯ニ煮付ノ單略ナルモノナルモ田島村婦人農会ノ奉仕の手料理ニテ一同感謝シタリ

中村県会議員ノ歓迎ノ辞ニ至リテハ脇山村婦人団ニアリテハ感泣セルモノヲ見受ケタリ

東郷川島町長四斗樽清酒一丁 田島婦人農会ヨリ鏡餅 八幡市吉田荒五郎金一封奉納

右ハイツレモ早良郡脇山村へ寄贈ス

午後二時中食ヲ終へ一同万才三唱帰村ノ途ニツク

当日参列者ノ主ナルモノ左ノ如シ

松尾社寺属、中村県議、東郷神興岬町村長

津屋崎田島小学校長、古閑署長等

一、花田主典ハ南郷村へ 入江祢宜ハ東郷町へイツレモ参宮団ノ件ニテ出張(午後五時ヨリ)

三月二十六日

一、午前十一時参宮団十六名ノタメ祓式並ニ途上平安ノ祈願ヲナシ十二時出發参宮ノ途ニツク 入江祢宜案内ノタメ出張

一、花田主典廿五日主基田祈願祭ニ関シ御礼ノタメ田島村婦人農会長役場等ヲ巡回シタリ

三月二十七日

一、幡掛宮司 花田主典 早良郡脇山村主基斎田豊饒祈願祭当日ノ謝礼ノタメ宗像地方自治会館、川島東郷町長、中村県会議員訪問ノタメ南郷村、東郷町へ

三月二十九日

一、幡掛宮司 斎田研究委員会へ出席ノタメ福岡県神職会へ

三月三十一日

一、伊勢参宮団午后九時帰社ス

四月一日

一、幡掛宮司主基斎田ノ件ニ付委員会ニ出席ノタメ福岡県神職会へ

一、午前十一時 参宮団 報賽祭奉仕

入江祢宜 宗像吉田主典

参列 越智峰吉 池浦晴吉 安部浦吉 河部彦一

渡辺啓次郎 植木正人 山田藤十 深田リン

了テ社務所ニ於テ直会 午后一時解散

四月二日

一、入江祢宜ハ上西郷村斎田撰定打合セノタメ同村へ出張

一、幡掛宮司ハ主基斎田ノ打合会ノタメ福岡市出張

四月三日

一、午后三時ヨリ参宮団慰労会ニ入江祢宜、植木雇出席

四月五日

一、三月廿五日主基田祈願祭関係者ヲ招饗 午后六時ヨリ慰労会開催

四月六日

一、幡掛宮司 入江祢宜 花田、宗像主典 早良郡脇山村主基斎田視察ノタメ午前八時ヨリ出向

四月七日

一、午後七時ヨリ入江祢宜花田主典斎田設置ノ件及農事組合大会用糯米寄附懇請ノタメ田島村区長会議へ列席

四月九日

一、〔中略〕宗像郡農会ヨリ主基田豊穰並ニ本郡農蚕豊穰祈願祭ノ件受付

四月十二日

一、午後一時半ヨリ主基斎田祓式ノ打合セノタメ幡掛宮司入江祢宜 花田主典出張〔同十四日帰社〕

四月十三日

一、午後一時

脇山村大祓式及奉告祭

脇山村代表トシテ緒方新五郎、眞子藤一郎

四月十七日

一、午後七時田島村斎田耕作者深田守次郎氏宅ニ入江祢宜、花田宗像主典出張打合ス

四月十八日

一、入江祢宜、宗像主典、宗像神社悠紀齋田土地選定ノタメ田島村大字田島字飛松へ出向 全臨場者 齋田耕作者 深田守次郎 占部技手 安部助役 区長吉武儀一郎、深田和一郎 午後一時入江祢宜 宗像主典帰社

四月二十日

一、入江祢宜脇山村出張夕刻帰社

四月二十一日

一、明日ノ齋田奉告祭ノ件ニ付入江祢宜ハ郡農会へ出張

四月二十二日

一、午前十一時 宗像神社 大嘗祭悠紀主基両齋田決定奉告祭並ニ五穀豊穰農神像奉獻報告祭執行

奉仕者 幡掛宮司 入江祢宜 宗像主典 吉田主典
参列者 悠紀齋田 大田主 深田守次郎

主基齋田 大田主 伊藤惣太郎
郡農会占部技手 田島村上西郷村助役及両村駐在 農業技手 農神像奉獻団依托大阪毎日新聞福岡支局長

続テ大田主へノ示達式举行

一、祭典終了后社務所ニ於テ直会
次ニ齋田事務ニ関スル協議会開催 午后四時解散

四月二十五日

一、安部助役、吉武区長占部囑託来社齋田地鎮祭ノ件打合せ
一、悠紀田奉耕者神籤ニヨリ左ノ通り定ム

青年団七名

処女会八名⁽²⁾

多礼	早川寛	24才	早川キヲノ
田島	吉武昌夫	22才	池浦サツキ
全	力丸義夫	25才	吉武トキ
全	吉武清	22才	嶺 サカエ
深田	福崎三郎	25才	中野フジ
牟田尻	鎌田保	25才	鎌田アサノ
吉田	中村正	17才	岩佐ヒトエ
			深田シズノ

計〔空欄〕

計〔空欄〕

〔中略〕

一、齋田標木左〔写真2〕ノ通り認ム（主基田モ全ジ）

四月二十六日

一、花田主典宗像主典悠紀田祓式諸準備〔ノカ〕タメ出向
一、入江祢宜全上ノ件ニ付東郷町出張
一、幡掛宮司 入江祢宜 宗像 花田主典 越智社掌 伊藤宮地雇 齋田 祭修礼ヲナス

四月二十七日

一、午前九時津屋崎町大神惣右エ門氏ヨリ齋田用犁式挺ノ奉納ノ為

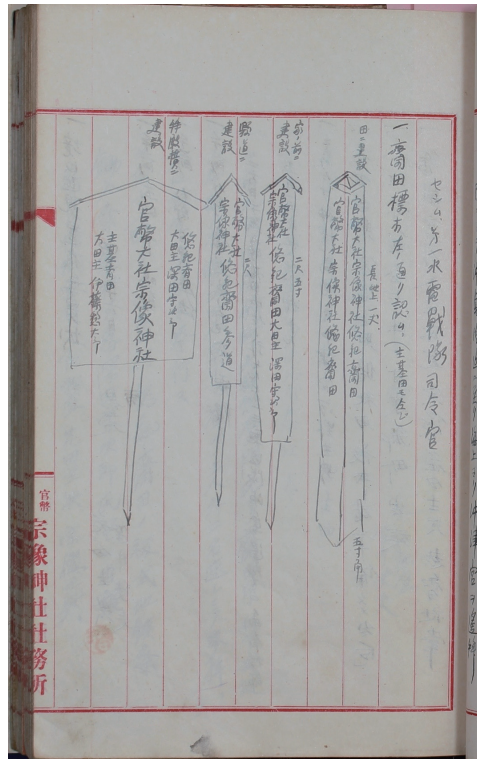


写真2 辺津宮社務日誌 昭和3年4月25日

職工四人白丁ヲ着ケ主人外二名連レニテ参拝。入江祢宜奉納式
挙行ス

一、午前十一時ヨリ田島村悠紀斎田ノ祓式地鎮祭鋤入祭執行ノ為深
田守次郎氏宅ニ出張

祭員 幡掛宮司、入江祢宜、花田主典、宗像主典、越智社掌、
中村石門社掌、伊藤宮地嶽神社雇 以上七名
式次第

一、定刻参列員着席
次 齋主以下祭員着席
次 太田主着席
次 祓主祓詞ヲ奏ス
次 大麻行事、切麻行事
次 降神行事

次 禊祓行事
次 祝詞奏上
次 地鎮神事
次 鋤入神事
次 齋主玉串奉奠拝礼祭員祭員列拜
次 齋田委員長玉串奉奠拝礼(大森村長)
次 太田主玉串奉奠拝礼(深田守次郎)
次 県農務課長玉串奉奠拝礼
次 県社寺課長玉串奉奠拝礼(山川課長ヨリ祝電受付)
次 齋田委員総代玉串奉奠拝礼(花田郡農会副会長)
次 主基田太田主玉串奉奠拝礼(伊藤惣太郎)
次 齋田技術部長玉串奉奠拝礼(占部要市)
次 奉耕者惣代玉串奉奠拝礼(福崎三郎)
次 警察署長玉串奉奠拝礼
次 郡農会長玉串奉奠拝礼(山下郡農会幹事)
次 町村長惣代玉串奉奠拝礼(池野村助役)
次 学校長惣代玉串奉奠拝礼(田島校長)
次 青年会長玉串奉奠拝礼(力丸義夫)
次 処女会長玉串奉奠拝礼(学校女教員)
次 参列員一同敬礼
次 昇神行事
次 一同退下 以上
〔中略〕
斎場(宗像郡田島村飛松)

〔写真3の図あり〕

午后一時半二直会解散、田島校生徒一同モ参列。参列者三百余名
前日ノ雨モ斎レテ盛典ナリ。

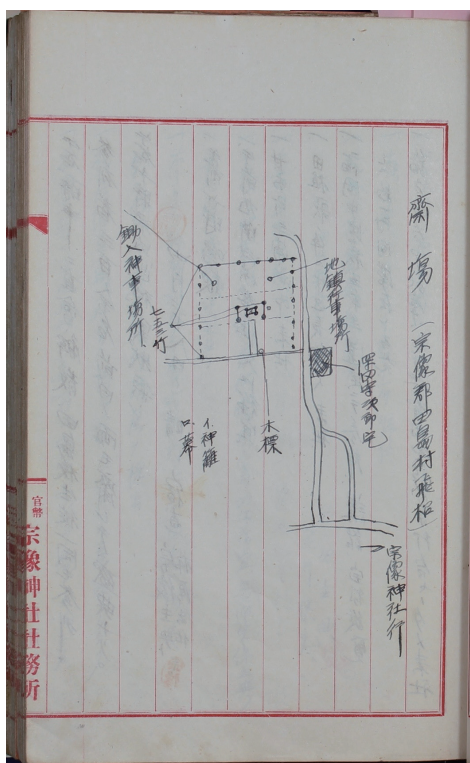


写真3 辺津宮社務日誌 昭和3年4月27日

四月二十八日

一、田植歌ノ件ニ付区長他二人来社

〔中略〕

一、緒方孝太郎社掌、主基斎田地鎮祭打合セノタメ来社

四月二十九日

一、花田主典ハ上西郷村主基斎田地鎮祭準備ノタメ午后出張

四月三十日

一、午前十一時ヨリ上西郷村伊藤惣太郎氏献納ノ主基斎田ノ祓式地
鎮祭鍬入式挙行ス。

一、定刻参列員着席

次 斎主以下祭員着席

次 太田主着席

次 祓主祓詞ヲ奏ス

次 大麻行事 切麻行事

次 降神行事

次 禊祓行事

次 祝詞奏上

次 地鎮行事

次 鍬入神事

次 斎主玉串奉奠拝礼祭員列拝

次 斎田委員長玉串奉奠拝礼

次 太田主玉串奉奠拝礼

次 県知事玉串奉奠拝礼

次 県農務課長玉串奉奠拝礼

次 県社寺課長玉串奉奠拝礼

次 郡農会長玉串奉奠拝礼

次 主基斎田部長玉串奉奠拝礼

次 悠紀斎田部長玉串奉奠拝礼

次 斎田技術部長玉串奉奠拝礼

次 悠紀斎田太田主玉串奉奠拝礼

次 奉耕者惣代玉串奉奠拝礼
 次 警察署長玉串奉奠拝礼
 次 町村長惣代玉串奉奠拝礼
 次 学校長惣代玉串奉奠拝礼
 次 村名譽職玉串奉奠拝礼
 次 在郷軍人会長玉串奉奠拝礼
 次 青年団長玉串奉奠拝礼
 次 処女会長玉串奉奠拝礼
 次 参列員一同敬礼
 次 昇神行事
 次 一同退下
 午後二時終了 直会后直チニ田島村ニ帰村
 宮内省雅楽部楽長安倍季功氏楽師多忠朝、多忠行ノ三氏来社、正式
 参拝ノ後社務所ニテ田島村ノ民謡田植歌ヲ聴取シ後幡掛宮司入江祢
 宜案内ニテ宮地嶽神社ニ参拝セラル。

註

- (1) 新修宗像市史編集委員会編、宗像市、二〇一三年。
- (2) 宗像神社復興期成会（編・発行）『宗像神社史 上巻』一九六一年、同『宗像神社史 下巻』一九六六年、同『宗像神社史 附巻』一九七一年、宗像大社復興期成会（編・発行）『宗像大社昭和造営誌』一九七六年。
- (3) 中島三千男『天皇の代替りと国民』青木書店、一九九〇年、高木博志「大嘗祭斎田拔穂の儀の歴史の変遷」（同『近代天皇制の文化的研究』校倉書房、一九九七年）など。
- (4) 樺本憲昌「御挨拶に代へて」『神光』第一号、一九三三年一月、一五頁。傍点は引用者による（以下同様）。
- (5) この参宮団については新聞でも経過が報じられた（宗像参宮団出発）『福岡日日新聞』昭和三年三月二十八日付。
- (6) 以下、昭和大礼関連の経過についてとくにことわりがない記述は福岡県（編・発行）『昭和主基斎田記録』（一九三一年）にもとづく。
- (7) 『日誌』昭和二年五月二十五日条、同八月七日条。齋藤知事は前述の東京出張から帰着して十日後に「斎田御勅定ニ付奉告並ニ大任奉仕祈願ノタメ」宗像神社（辺津宮）に参拝している（『日誌』昭和三年二月二十三日条）。
- (8) 「宗像神社奉告祭」『福岡日日新聞』昭和三年四月二十四日付。同月二十二日におこなわれた両斎田決定の奉告祭（『日誌』同日条参照）のことを報じている。
- (9) 「御大典と宗像神社悠紀斎田」玄海町町誌編纂委員会編『玄海町誌』（玄海町、一九七九年）五〇七頁。次注の写真帖にもとづいて両斎田のことを述べているのだが、見出しはなぜか主基斎田が抜けて悠紀斎田のみとなっている。
- (10) 宗像郡教育会（編・発行）『昭和御大典記念 史蹟名勝写真帖』

昭和三年（頁番号無し）。この史料の存在は岡本格氏（新修宗像市史編集委員会）からご教示いただいた。

- (11) 『日誌』大正四年五月二十〇～二十一日条欄外、同年六月二日条、同三日条、同十日条、同年十月二十七日条、同二十九日条、同年十一月二日条、同五日条。

- (12) 『日誌』昭和三年四月二十一日条、前掲『昭和主基斎田記録』三十二頁。もう一方の田島村の推薦候補地は大字田島の深田一夫の所有田であったが、宗像主基斎田の大田主となった深田守次郎（『日誌』昭和三年四月二十二日条）との関係は現時点では確認できていない。

- (13) 調査項目は前掲『昭和主基斎田記録』三〇―三一頁に列挙されている。

- (14) 昭和三年四月二十七日条、同三十日条。

- (15) 「宗社に詣でて赤誠の祈願」『福岡日日新聞』昭和三年三月二十六日付。適宜句読点を補った。

- (16) 「赤誠を込めて宗像神社へ」同二十四日付。

- (17) 前掲『昭和主基斎田記録』九四八―九六二頁、前掲『宗像神社史上巻』四九一頁、前掲『宗像神社史 下巻』三五八―三五九頁、前掲『玄海町誌』五〇五―五〇六頁。

- (18) 『造営誌』所載の「昭和造営年表」には、この日のことについて以下のように記述がある。「辺津宮手水舎・回廊・御典庫・楼門・守札場・参籠殿・神楽庫・絵馬堂・能舞台の新築、外苑・上高宮・下高宮用地購入、同整備費、中津宮本殿移転、正門・幣殿・正門左右透塀・本殿周囲透塀新築、境内拡張、沖津宮遙拝所拝殿・神饌所・斎館新築、沖津宮本殿改築等を基本とする総工費百四万五千百三十円の中、十ヶ年計画にて郡内より二十万円募集、残金八十万円を国庫より補助願いたい旨の申請書に郡内町村長の決議文を付し、

内務大臣鈴木喜三郎宛提出す（當舖書類十五卷）」（『造営誌』六二九頁）。

- (19) 『日誌』における学校生徒の清掃奉仕の初出と思われる。

- (20) 同年三月二十五日条参照。

- (21) 青年団は年齢の付記があるのに対して、処女会はそれが無い。理由は不明である。

（ひらやまのぼる 近代部会）